令和6年度　学校関係者評価

学校名	成田市立下総みどり学園

1　学校教育目標

地域とともに夢と希望に向かってたくましく生きる下総っ子

学校関係者評価委員
長野 泰紀・櫻井 美惠子 小坂 純子・飯田 信人 佐藤 広幸・山崎 忍 飯田 良久・石井 弘 関川 喜久重・玉田 学 寺田 克也

2　本年度の重点化された具体的な目標

『知育』…学習規律がしっかりと身に付いた子どもの育成・深く考える喜びを実感できる子どもの育成
『徳育』…自分をよく知り、愛し、そして他を尊重できる子どもの育成
『体育』…自らの健康・安全に関してしっかりと理解し、積極的に実践できる子どもの育成
『開かれた学校』…地域・家庭と「共に育てる」「共に鍛える」考え・思いを定着させ、積極的に参画してもらう

3　自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

※A（適切な評価である）　B（ほぼ適切な評価である）　C（やや不適切な評価である）　D（不適切な評価である）

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
教育課程 学習指導	基礎的・基本的な学習内容が身に付いている。	児童生徒80.4%・保護者85.9%が肯定的回答をしており、児童生徒は前回より0.2%減少・保護者は0.8%増加した。	A	○基礎的・基本的な学習内容の定着や思考力、判断力、表現力等の育成については、校内研修の実施やICTの活用による授業改善や、実態に即した個別最適な学びが促進できるようにしていく。 ○読書習慣の定着については、読書タイムの設定や学校司書との連携による啓蒙活動に加え、家庭教育による推進をより一層図っていく。 ○家庭学習習慣の定着については、家庭学習の手引きの配付や自主学習ノートの交流に加え、タブレット学習などによる学習の個別化に継続的に取り組めるよう努める。	A	A
	自ら思考・判断し、相手に表現する力が身に付いている。	児童生徒72.0%・保護者79.5%が肯定的回答をしており、前回より児童生徒は3.4%減少・保護者は2.9%増加したが80%に至らなかった。	B			
	読書をする習慣が身に付いている。	児童生徒58.3%・保護者39.4%が肯定的回答をしており、前回より児童生徒は1.1%減少したが、保護者は2.9%増加した。	C			
	家庭学習の習慣が身に付いている。	児童生徒71.7%・保護者63.5%が肯定的回答をした。前回より保護者は0.4%と微増したが、生徒は11.2%減少し、どちらも80%には至らなかった。	B			
学校関係者による意見等	家庭でも本は読まない。子どもたちが本離れしてしまっている。これまで本で調べていた内容もAIが回答してくれる。 本は読まないと速く読めない。字を読む、字を辿る経験は大事だと感じている。 月に2回、読み聞かせで来校しているが、子どもたちはよく聞いてくれている。小さい時から言葉を浴びせ、読み聞かせをすることは大切なことだと考える。自分が好きなものからでよいので活字に慣れるということが大事である。					
生徒指導	時間や決まりを守ったり、進んであいさつをしたりする生活習慣が身に付いている。	児童生徒86.3%・保護者78.7%が肯定的回答をしており、どちらも前回とほぼ変わっておらず、保護者が80%に至らなかった。	B	○基本的な生活習慣の定着について,日常的な情報交換や保護者面談等の機会を生かして保護者との連携を図る。 ○充実した道徳科授業の展開を目指すと共に、職員の学級経営の力を高め、児童生徒が生活しやすい学級づくりに努める。 ○定期的に生徒指導部会議や教育相談週間、学校生活アンケート等を実施し、子どもたちの実態把握や問題の早期発見、情報共有に努める。	A	A
	心の教育を通して他を思いやる優しい心が育っている。	児童生徒83.8%・保護者93.2%が肯定的回答をしており、児童生徒は前回より1.2%増加した。	A			
	児童生徒理解や相談しやすい雰囲気づくりに取り組み、いじめの防止や早期発見に努めている。	児童生徒80.1%・保護者83.9%が肯定的回答をしており、児童生徒は1.9%減少したが、保護者は4.2%増加した。	A			
学校関係者による意見等	子どもの挨拶は非常に素晴らしいと思う。Aでいいのではないか。 縦割りでの交流活動により、心が育っていることを感じている。9年生が1年生に合わせてかがんでやりとりをする姿も目にしており、素晴らしいと思った。 保護者によっての捉え方の違いがあるだけで、全体を見ると挨拶はきちんとできている。					
保護者，地域住民等との連携	保護者・地域と連携・協力しながら教育活動に取り組んでいる。	保護者89.6%が肯定的回答をしており、前回より0.5%減少した。	A	○校内参観の機会を設定したり、学校HP・学校だより等で情報発信することで、本校の教育活動を理解していただけるよう努める。 ○全職員で行事等の内容を検討する機会を設定し、義務教育学校ならではの取り組みが効果的に行えるよう努める。	A	A
	異学年交流等の義務教育学校の特色を生かした教育活動に取り組んでいる。	保護者94.0%が肯定的回答をしており、前回より1.7%増加した。	A			
学校関係者による意見等	全校行事を見ると、学校の特色が生きていることが分かる。 上学年が下学年を見る機会があることはとてもよい。心が育つ。全体の雰囲気がとてもよい。					

4　次期の重点目標と改善のための方策

学校公開日や校内行事等によって校内参観できる機会を設定したり、学年・学校だより等を通して学校の様子を発信したりしたことで、本校の教育活動に対する理解を深めることができた。今年度の取り組みを通して得られた成果・課題について、校内でよく検討し、次年度以降の教育活動へと確実に生かしていく。
・地域と連携を図り、体験活動を充実させ、学習意欲を高めたり学習理解を深めたりできるようにする。
・児童生徒一人一人の実態をとらえ、基礎学力の定着に努めるとともに、主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。
・一人一台端末の効果的な利活用について研修に取り組み、指導の個別化を図るとともに個に応じた指導方法の工夫・改善に努める。
・家庭と密に連携し、家庭学習や読書習慣の定着に努める。
・生徒指導組織を充実させ、SCや教育相談員や外部組織と連携し、問題行動や長期欠席，不登校、いじめ等への早期発見・早期　対応に努める。
・合理的配慮の申出等、児童生徒や保護者の困り感を理解するとともに、教職員の専門性を高め、個別支援の充実を図る。